



令和元年 7 月 19 日

放射線相談室だより 55号

1

広野町～相馬市間を車で移動した際の空間の放射線量を測定しました

浜通りの主な道路を走って、車内の放射線量を測ってみました。今回3回目となります。過去2回と同じく、行き（広野町→相馬市）は国道6号線（時速約40～50km）、帰り（相馬市→広野町）は常磐自動車道（時速約70km）としました。

平成 28 年 12 月



令和元年 7 月



1時間当たりの空間の放射線量を色で示しています（個人被ばく線量計DOSE-e-nanoで測定）。赤色や黄色の場所はあまり変わりませんが、もともと青色だったところが水色に、水色が黄緑色に上がった場所がありました。

◆往路 広野町→相馬市（国道6号線）

測定年月	区間内の積算線量	所要時間	1時間当たりの被ばく線量
平成28年12月	0.39 μ Sv	1時間46分	0.22 μ Sv
平成30年7月	0.29 μ Sv	1時間45分	0.17 μ Sv
令和元年7月	0.33 μ Sv	1時間48分	0.19 μ Sv

◆復路 相馬市→広野町（常盤自動車道）

測定年月	区間内の積算線量	所要時間	1時間当たりの被ばく線量
平成28年12月	0.20 μ Sv	1時間21分	0.14 μ Sv
平成30年7月	0.17 μ Sv	1時間20分	0.13 μ Sv
令和元年7月	0.19 μ Sv	1時間23分	0.14 μ Sv

今回の結果は、行きは平成28年12月より低くなり、帰りはほぼ同じ結果になりました。時がたつにつれて放射線が下がってきたためと考えられます。

※平成30年7月の結果より積算線量が高い理由は、いくつか考えられます。

- ・一度の測定のため結果があまり信頼できないこと
- ・機械の正確さ（精度）
- ・放射線量が低いところでは、もともと自然界にある放射線の割合が変動することで測定する放射線量にも影響があること

平成30年7月と比べて極端に上がったところはありません。上がったのは、放射線量が低かった場所でした。（1ページ目の地図下の説明もご参照ください）。



1ページ目の地図に赤く色づけられた場所では、1時間そこにいると1 μ Sv以上の被ばく線量になることを表していますが、実際には短時間で通過してしまうので、上の表にあるとおり、積算線量はそこまで高くなりません。

食品のモニタリング結果総括表

(令和元年6月実施分)

【基準値】: 一般食品 100Bq/kg 牛乳・乳幼児製品 50Bq/kg 飲料水 10Bq/kg

規制のない食品	検査数	基準値未満	基準値以上	備考 (基準値以上の品目)
野菜	8	8	0	
根菜・芋類	13	13	0	
山菜・きのこ	5	5	0	
果物	4	4	0	
穀類	—	—	—	
種実類	—	—	—	
魚介類	—	—	—	
加工食品	—	—	—	
飲料水	—	—	—	
その他(肉類など)	1	1	0	
総検査数	31	31	0	

食品モニタリング結果の詳細については、公民館1階の放射能簡易分析センターと放射線相談室に置くほか、広野町ホームページに掲載しますのでご利用下さい。

右のQRコードを読み取ったあと、東日本大震災→放射線量・除染関連→放射線量情報の項目の中の「食品モニタリング」をクリックしていただくと見ることができます。



場 所 公民館1階 放射能簡易分析センター
 曜 日 月曜日から金曜日(祝日を除く)
 受付時間 午前8時30分～午後4時30分まで

広野町各地区の放射線量

令和元年7月12日13時30分現在(天候:くもり)の町内各地区代表的な個所のモニタリングポストの数値をお知らせします。

測定箇所	放射線量率($\mu\text{Sv/h}$)	測定箇所	放射線量率($\mu\text{Sv/h}$)
広野小学校	0.08	広野町役場	0.09
広野中学校	0.07	高速バス利用者駐車場	0.14
広洋台地区集会所	0.10	上田郷橋付近 ^{注1}	0.13
二ツ沼公園 ^{注2}	0.08	北沢複合交差点	0.13
長畑地区集会所	0.11	県道広野～小高線沿	0.13
小滝平浄水場 ^{注2}	0.08	仮置場	0.09

注1 平成29年3月設置

注2 二ツ沼公園、小滝平浄水場のモニタリングポストは現地ではnGy/h(ナノグレイ毎時)で表示されていますが、 $\mu\text{Sv/h}$ (マイクロシーベルト毎時)に換算して掲載しています。

放射線健康対策委員会からの放射線に関するコラム

数値の意味するところ

福島県立医科大学医学部放射線物理化学講座 教授 石川 徹夫

この「放射線相談室だより」には、広野町各地区の放射線量率の値が出ています。例えば、自分の家の近くの数値が $0.11 \mu\text{Sv/h}$ という値だったとしましょう。全く知識のない状況でこの数値を見ても、それが高いのか低いのかわかりません。この数値の全体の中での位置づけがわからないわけです。

これを知るためには、他の場所の値と比較するというのが一つの方法です。日本政府観光局の資料（2018年）では、世界の主要都市の線量率を比較しています。東京では $0.037 \mu\text{Sv/h}$ ですが、比較的高い値としてはロンドンで $0.108 \mu\text{Sv/h}$ 、ベルリンで $0.073 \mu\text{Sv/h}$ 、ソウルで $0.117 \mu\text{Sv/h}$ というデータがあります。世界の主要都市と比べて、 $0.11 \mu\text{Sv/h}$ という値はそんなに高くはないことがわかります。

また、過去の値と比べるという方法もあります。昨年11月の「放射線相談室だより47号」に2012年以降の線量率の推移が載っています。これによると、2012年当初の線量率は、高いところで $0.46 \mu\text{Sv/h}$ 程度でした。だいぶ下がってきていることがわかります。

このように、全体の中での位置づけを行う作業を通じて、数字の「意味」というものがわかってきます。

過去、あるいは他との比較において、自分の位置を確認するという作業は、実は私たちが無意識に行っていることなのかもしれません。例えば、学校の数学のテストでいつもは50点くらいだったのが、今回は70点が取れたとすると嬉しくなるでしょう。逆に、いつもは70点くらい取れていたのが今回は50点だとしたら、少しがっかりするでしょう。しかし今回は問題が難しく、平均点が40点だったと後から聞いたら、ちょっと安心するかもしれません。

このように数値はそれ自体が意味を持つというより、他との比較によって初めて意味が出てくるような気がします。

発行者

広野町放射線相談室

080-9252-4773

広野町健康福祉課放射線健康相談係

0240-27-2113